

国立国会図書館 関西館ライブラリーカフェ

百年前の人々が 本を手にするまで

-近代奈良の書物文化環境をたどる

令和6年3月15日(金) 14:00～16:10

ー 最近読んだ本は、どこで、どのように入手しましたか？

同じ質問を百年前の人にしたら、どのような答えが返ってくるでしょうか。

書物は、印刷、製本など出版にまつわる関係業者の手を経て形になり、書店、貸本屋、図書館などを通じて人々の手に届きます。今回の関西館ライブラリーカフェでは、近代の奈良を例に、過去の人々がどのようにして書物に触れる機会を得たのか、その経路や書物をめぐる関係者が果たした役割などの調べ方をご紹介します。

プログラム

14:00～15:40 話題提供の部

講演：百年前の「当たり前」を知るために
ー近代奈良書物文化環境へのアプローチ

講師：磯部敦さん

(奈良女子大学大学院人文科学系教授)

関連資料の紹介

15:50～16:10 情報交換の部

質疑応答、懇談

申込方法

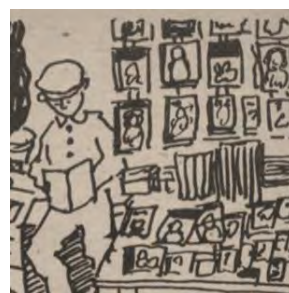
定員：15名(先着順、参加無料)

開催場所：国立国会図書館関西館

申込方法：k-events@ndl.go.jp に参加をご希望の方の

「お名前」「ご連絡先メールアドレス」をお送りください。

申込締切：令和6年3月12日(火)



いそべ あつし

講師 磯部 敦 さん（奈良女子大学大学院人文科学系教授）

講師から

あなたはその本をいつ、どこで、なぜ入手し、どのように読んだでしょうか。私たちが本を読む日常の風景ですが、これがほんの百年前のことになると、とたんに分からなくなります。誰が、どこで、何を入手し、なぜ、どのように読んでいたのか。そもそも、百年前にどれくらい本屋や図書館があったのか。この「当たり前」の風景に、どのような資料からどこまでアプローチできるでしょうか。

かつて奈良に実在した書店の内部記録等の実物資料や、国立国会図書館デジタルコレクションの公開画像を見ながら、百年前の「当たり前」を調べるための方法について考えていきます。

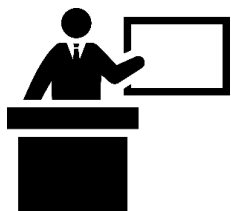
プロフィール

中央大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程修了。2011年、博士号(文学)を取得。著書に、『近代奈良県書物文化環境一覧』(文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、2017-2020)、『明治前期の本屋覚書き 附.東京出版業者名寄せ』(編著、金沢文圃閣、2012)、『出版文化の明治前期 東京稗史出版社とその周辺』(単著、ペリかん社、2012)、論文に「二つの〈吉野〉前登志夫、活動初期の書簡群から」(『歌壇』37巻11号、2023)など。

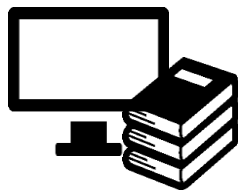
“次に開く一冊”に出会う

関西館ライブラリーカフェとは？

「関西館ライブラリーカフェ」は、特定のテーマについて話題提供者からのお話を聞き、自由な雰囲気懇談するとともに、テーマに関連する資料を紹介する催しです。



特定のテーマについて
専門家が話題提供



関西館の蔵書から
テーマに関連する
資料を紹介



話題提供者(専門家)
と参加者が、自由な
雰囲気懇談